

名前

第3回G模試(7月)国語の範囲は長文が実力問題、漢字が漢字プリント10～14、知識が「慣用句1」「ことわざ1」です。

国語

第3回G模試(7月)までに、「漢字練習プリント10～14」「知識分野の教材の慣用句1・ことわざ1(※知識教材についての詳細は2ページ目に記載がございます)」の学習を少しずつ進めていくこと。16回授業で漢字10、17回授業で漢字11、18回授業で漢字12、19回授業で漢字13+慣用句1、20回授業で漢字14、21回授業で漢字10～14+ことわざ1のテストを行います。

扱った文章がどんな内容だったか、どんな話が授業で出たか、などを家の人に説明する。

語彙に興味を持って親しんでもらうことを目的とした動画を紹介しています。動画を見るのが宿題というわけではないですが、動画で映像を見ることを通じて、語彙に親しみ、面白さに触れてもらったり、意味の理解を深めていったりしてほしいと思います。



おもしろくて ためになる 語彙動画

毎朝1本公開します。

語彙動画の視聴を習慣化して、楽しく語彙を増やしましょう。

第16回通信欄

【国語】

今回は、岡田淳『放課後の時間割』の最初の部分を扱いました。続きは授業では扱いませんが、お薦めの本の一冊ですので、読んでみるのもいいでしょう。短編がいくつか合わさった形をしているので、1話ずつ読ませ、どんな話だったかを伝えさせてみる(あまり本人が嫌がらない程度に)という読ませ方も考えられます。

この本がそうなるか、という点では個人によって異なるかとは思いますが、「没頭して読む」経験は、本に書いてある情報を取り入れるという効果の他に、読むスピードを向上させるという副次的な効果も生み出します。生徒たちには、(時間があるうちに)是非「自分と合う本」を探してほしいと考えています。

第17回通信欄

【国語】

今回と次回で一つの話の扱っていきます。今回扱ったところは「変化前」の部分にあたります。今回の文章の内容について話させてみて、その際に「きっかけ」「変化後」にあたる部分の予想をご家庭で話し合ってみるのもいいでしょう。

なお、問一では対比に関わる問題を設けています。こういった時に、今回であれば「男子生徒たちは、～。しかし、女生徒は、～」という形を意識できれば、記述問題にも取り組みやすくなってきます。

第18回通信欄

【国語】

今回は、主人公の変化するところが描かれた場面を扱いました。変化のきっかけと変化後の様子が描かれており、長さはいつもより短くなっていますが、その分考えることが多い文章になっています。

前回の問一で考えたような、対比の要素を意識した記述ができれば、問四や問五でスムーズな発想ができるようになってきます。まだまだ難しいところもありますが、少しでも対比への意識が高まればと思います。

第 19 回通信欄

【国語】

3回で構成される教材「バトン・パス」の1回目を扱いました。今回は、人物関係における対比の読み取りが主要なテーマとなっています。特に、「ぼく」と「福岡」については、しっかりと対比で説明できるようにしておいてほしいと思います。問五がそれに関連した問題ですが、「～。それに比べて、～」といった表現の方法や、「引き立て役」などの言葉がうまく使えると書きやすくなりますし、その上に心情を盛り込めるとよりよい解答になります。

問三は、3回のお話を全体としてとらえる上で、大きな意味を持つ問題です。主人公の変化とも関わってきますので、「変化前」にはどのような考え方だったか、押さえておいてほしいということで出題しました。

第 20 回通信欄

【国語】

今回の教材で出てきた主人公の心情ですが、生徒によってはやや実感しにくい、あるいはイメージしにくい、というところがあるかもしれません（個人差がありますが、どちらかというとな男子生徒の方はまだ捉えにくそうにする傾向があるようです）。それでも、まずは対比や変化をもとにして考えられるところは考え、あるいは行動の様子を想像してそれと心情を結び付けてみてほしいと考えています。講師の話なども参考にするとよいでしょう。

そのうえで、一番最後の部分の主人公の気持ちを考えてみてほしいと考えています。

第 21 回通信欄

【国語】

3回にわたって、「バトン・パス」を読み進めてきました。本日のところでは、主人公の心境に大きな変化がおとずれています。こういった場合、主人公の変化前・変化後を、対比を用いてとらえると、変化の様子を具体的に説明しやすくなります。

最後の問題を完璧に書くのは難しいところですが、一つでも多くの要素を盛り込めるようになってほしいと考えています。反対語を使って、キーワードをとらえることができれば、盛り込むべき要素が見つかりやすくなります。

知識分野の教材について

「慣用句1」「ことわざ1」は第3回G模試、「語彙」「四字熟語」「反対語1」は第4回G模試、「類義語」「慣用句2」は第5回G模試、「ことわざ2」「反対語2」は第6回G模試の出題範囲となります。

また、事前に国語家庭学習レポート等で告知の上、新出漢字がない回の漢字確認テスト時等で知識分野（G模試範囲となっている分野）のテストをあわせて行うことができます。例えば第3回G模試の範囲であれば、今回の家庭学習レポートの1ページ目にて案内した通り、「慣用句1」は「漢字13」、「ことわざ1」は「漢字10～14」のテストの際に、あわせて実施いたします。

おすすめする学習方法は以下の通りです。

「慣用句」「ことわざ」

- ①教材を読み、慣用句・ことわざの意味を覚える。
- ②例文を読んで、慣用句・ことわざの使い方を覚える。
- ③意味を聞いた時に慣用句・ことわざを答えられるようにする。

「語彙」「四字熟語」

- ①教材を読み、語彙・四字熟語の意味を覚える。
- ②例文を読んで、語彙・四字熟語の使い方を覚える。
- ③意味を聞いた時に語彙・四字熟語を答えられるようにする。

「反対語」「類義語」

- ①教材を読み、熟語の読みを覚える。
- ②例文を読んで、どのような意味で反対になっているのか（似ているのか）イメージがわくようにする。
- ③〇〇の反対語（類義語）は？という問いにまずは口頭で答えられるようにする。
- ④出てきた熟語を漢字で書けるようにする。

各分野の末尾に問題が載っていますので、その問題を繰り返し解いて覚えましょう。

巻末に解答がございます。巻末だけホチキスの部分から少し余らせたところで切り離し、保護者が管理することをおすすめします。